

学校の概要 (平成15年4月現在)

高岡市立野村小学校									
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	3	1	24	34
児童数	149	128	143	133	131	100	3	789	

実践研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るには、どうすればよいか

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数及び国語

(算数は系統性が明確で、児童の理解の程度に差が出やすい教科であるため。また、国語は、基礎・基本の定着を図るために、重要な教科であるから。)

(2) 年次ごとの計画

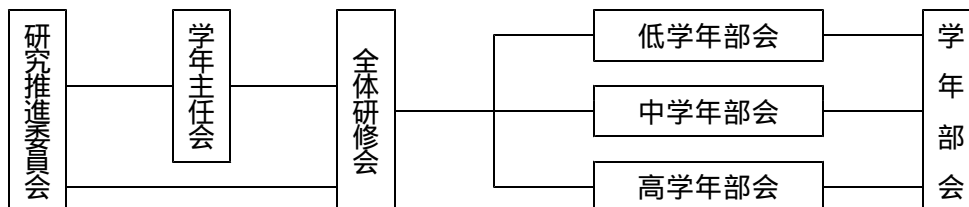
平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図り、学ぶ喜びを育てる算数指導の在り方 研究の見通し</p> <p>(1) 一人一人の実態を把握し、それに応じた指導方法や指導体制を工夫することによって、児童の意欲化を図ることができる。</p> <p>(2) 補助教材や発展的内容に応じた教材を工夫することによって、一人一人に適したきめ細かな指導をすることができる。</p> <p>(3) 評価を工夫することによって、一人一人の実態を適切に把握し、指導に生かすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 一人一人の実態に応じた指導方法、指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に適した学習形態の工夫 ・単元計画への多様な集団編成の位置づけ <p>(2) 少人数指導に活用できる教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充教材の作成 ・発展的内容の教材開発 <p>(3) 個に応じた指導のための評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準A・Bの設定 ・自己診断テストの開発
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図り、学ぶ喜びを育てる算数・国語指導の在り方 研究の見通し</p> <p>(1) 単元構想や教材を柔軟に工夫することによって、児童の意欲を高めることができる。</p> <p>(2) 児童の実態に応じて、指導方法や指導体制を工夫することによって、一人一人に適したきめ細かな指導をすることができる。</p> <p>(3) 評価を工夫することによって、一人一人の実態を適切に把握し、指導に生かすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 楽しさを味わい、学ぶ意欲が高まる単元構想や教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いや考えを生かす課題や教材の工夫 ・補充・発展的内容の教材開発 <p>(2) 一人一人の力を伸ばす、個に応じた指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態と学習内容に適した学習形態の工夫(少人数・TT) ・児童の実態に応じた学習活動や支援の工夫 <p>(3) 互いのよさに気づき、成長を自覚する振り返りの場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価の工夫とその活用 ・互いのよさを認め合うことができるかかわりの場の工夫 <p>*平成14年度の研究成果をふまえ、研究の見通し(1)(2)を修正した。算数・国語の双方から解明するために研究内容・方法を見直した。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図り、学ぶ喜びを育てる指導の在り方 研究の見通し</p>
--------	--

平成 16 年 度	<p>(1) 単元構想や教材を柔軟に工夫することによって、児童の意欲を高めることができる。</p> <p>(2) 児童の実態に応じて、指導方法や指導体制を工夫することによって、一人一人に適したきめ細かな指導をすることができる。</p> <p>(3) 評価を工夫することによって、一人一人の実態を適切に把握し、指導に生かすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 楽しさを味わい、学ぶ意欲が高まる単元構想や教材の工夫 ・一人一人の思いや考えを生かす課題や教材の工夫 ・教科・領域の関連を図った単元構想の工夫</p> <p>(2) 一人一人の力を伸ばす、個に応じた指導方法の工夫 ・一人一人の実態と学習内容に適した学習形態の工夫 (少人数・T T・教科担任制) ・一人一人の実態に応じた学習活動や支援の工夫</p> <p>(3) 互いのよさに気づき、成長を自覚する振り返りの場の工夫 ・互いのよさを高め合うことができるかかわりの場の工夫 ・一人一人の実態を継続的に把握する評価の観点及び評価方法の工夫</p>
--------------------	--

(3) 研究体制

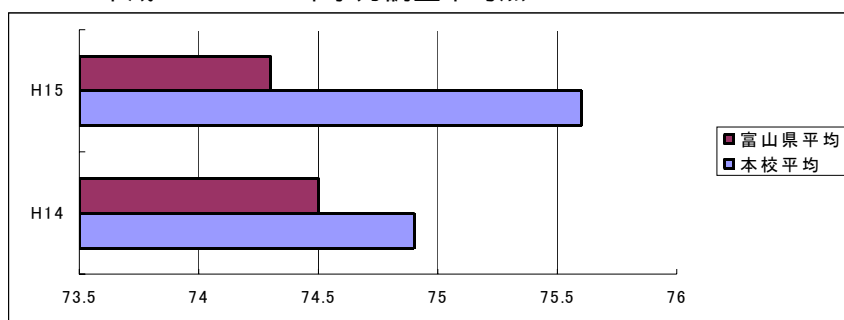


研究推進委員会は、各学年1名からなる。研究の方向・内容・計画などについて協議した。また、学年部会の進展状況や活動状況などの情報を交換し合い、連絡調整をした。全体研修会では、研究内容や方法などについて共通理解を図り、低・中・高学年各部会や学年部会の実践結果を発表し合い、研究成果の共有化を図った。低・中・高学年部会や学年部会では、指導案作成や研究のまとめを行った。日常的に互いの授業を見合うなど自主的研修も行い、授業力の向上を目指した。

平成15年度の研究成果及び今後の課題
 1. 研究成果

1 成績の向上

平成14・15年学力調査平均点 H15.7



県小教研作成の学力テストの平均点は、学年による実態の違いはあるものの、3年生以上の全学年を平均すると、昨年度より向上している。これは、一人一人に応じたきめ細かな支援や、指導体制の工夫の成果が現れていると考える。

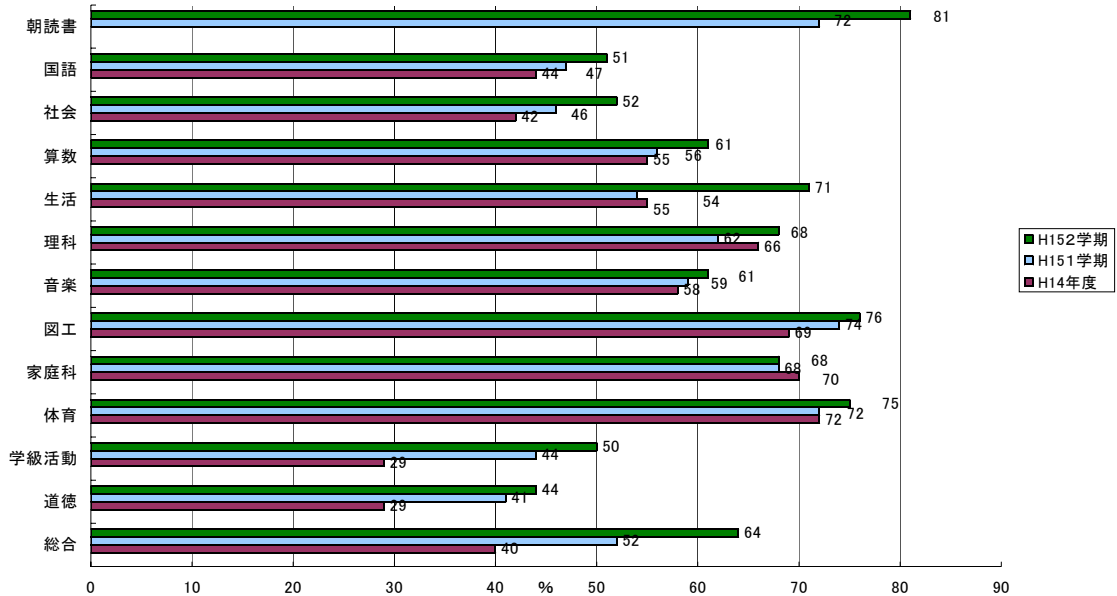
3年生以上の算数ではT Tや少人数学習を取り入れた。単元や児童の実態に応じて、T T指導、学級内少人数指導、クラスを解体しての少人数指導と柔軟に対応できる時間割編成を行った。

例えば、4年生の算数「わり算」の学習では、じっくり考えを出し合う場では、一斉学習によるT T指導を取り入れ、計算の習熟の場では、個人評価表による一人一人の実態把握をもとにT T指導や学級内少人数指導を取り入れた。まとめの段階では、児童の取り組みたい課題別に二クラスを3グループ「計算ばっちりコース」「文章題ばっちりコース」「チャレンジコース」に分けての少人数指導を行った。

2 学習意欲の高まり

「どの教科が好きですか」というアンケート調査の結果、前年度に比べてどの教科も好きな児童の割合が増えている。日々の授業の質的向上を目指し、児童が楽しく取り組めるような単元構想や教材を工夫してきたことが実を結んでいるといえる。

学習アンケート「好きな教科」



6年生の算数では単位量当たりの大きさの学習で、宿泊学習の部屋割りにおける畳の数と人数による混み具合を調べた。2年生の「100より大きい数を調べよう」では、カードめくりゲームで、出た数の合計をお金の模型で調べた。このように身近な生活の中の問題を教材化したり、ゲーム的要素のある活動を取り入れることによって、児童は切実感をもち意欲的に学習に取り組むことができた。また、操作活動や体験的な活動を十分に取り入れることにより、実感を伴って理解を得ることができ、児童は学ぶ喜びを味わうことができた。

国語科においても、児童が「書きたい」「話したい」「聞きたい」と思うような身近な題材や人との出会いを工夫することによって、学習意欲を高めることができた。例えば1年生の「好きなものを知らせるね」の学習では、児童一人一人が思いを寄せているものを友達に知らせる文章を書くことに取り組んだ。また、毎日の朝読書は、児童の心を豊かに耕し、落ち着いた一日の始まりをもたらしている。

3 思考力・表現力の高まり

児童一人一人の思考の深まりや、表現力の高まりは、学習の振り返りの場において捉えることができる。自己評価や相互評価を工夫することにより、児童は互いのよさや自己の成長に気づくことができた。子供同士のかかわりが大きいほど、児童の考えの深まりが見られた。

例えば、3年生の国語「調べたことを発表しよう」では、インタビューの仕方について、ビデオをもとに友達にほめてもらったりアドバイスをもらったりすることで、自信をもってインタビューをすることができた。5年生国語の「地球環境を考えよう」ではパネルディスカッション方式でこども環境会議を行い、それぞれの考えを聞き合った。立場の違う考えの友達から反論されることで、自らの考えを見直し、より広い見方の考えへと深めていく児童の姿が見られた。

2. 今後の課題

地域の幼稚園・保育園・中学校との連携をさらに深め、児童の育ちを見通しをもって見つめていきたい。また、教科担任制や算数以外の教科での少人数指導など、効果的と思われる場面での取り入れ方を探りたい。

学力把握のための学校の取組について

- ・県小学校教育課程研究会作成の「学力調査」(年1回、4月)
- ・県小学校教育課程研究会作成の「学期のまとめ」テスト(毎学期末)
- ・県教育委員会・校長会作成の「チャレンジテスト」(年2回)計算・漢字
- ・市教育委員会作成の定着度調査(年1回、2月) 計算・ことば
- ・本校作成の「算数パワーアップテスト」(3月又は来年度4月) 計算
- ・本校作成の「学習アンケート」【好きな教科・心に残る学習】(毎学期末)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

(1) 近隣の小・中学校・幼稚園・保育園に対して

- 6月 7日(土) 授業参観
- 6月 24日(火) 公開授業研究会
- 11月 18日(火) 学校訪問研修会
- 11月 28日(金) 授業参観
- 2月 10日(火) 授業参観

(2) 保護者に対して・・・学校便り、学年通信、学級懇談会、授業参観

(3) 市内の小・中学校への普及

HPの作成中(<http://mps.city-takaoka.jp/nomura/nomuratop/nomuratop.asp>)

研究紀要の配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|----------------------|------------------------------------|---|----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | 1 5 年度からの新規校 | レ | 1 4 年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 6 学級以下
1 3 ~ 1 8 学級
2 5 学級以上 | レ | 7 ~ 1 2 学級
1 9 ~ 2 4 学級 |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導
一部教科担任制 | レ | T . T による指導
その他 |
| 【研究教科】 | レ 国語
生活
体育 | レ | 社会
音楽
その他 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ | 算数
図画工作
理科
家庭 |
| | | レ | 有 無 |